

# 景気動向調査の概要【平成26年10月～12月】

平成27年3月10日  
富山商工会議所

## 依然続く足踏み状態 北陸新幹線開業に期待

### ～来期の見通しは後退へ～

今回の調査では、景気の現状や平成27年3月14日に開業する北陸新幹線の影響、平成27年度に強化する各業界・団体の事業や取り組みなどについて聞いた。

景気の現状については、「緩やかに回復している」という回答が前回調査（平成26年7～9月）と比べ、6.9ポイント減少した。半数以上の企業が「足踏み状態」と回答し、前回調査に続き、景気の後退を示す結果となった。景気の状態を表す「DI」（景況判断指数）は前期に比べ▲3.3、また、来期の見通しは▲26.7となり、ともに「悪化」を示す結果となった。

北陸新幹線の開業による影響について、製造業では、富山・東京間の利便性向上を挙げ、日帰り出張の増加による宿泊費の削減や重要案件の商談スピードを上げた取り組みなどの効果を期待している。また、関東方面からの人材を確保しやすくなることを上げた企業もあり、ビジネス拡大のチャンスにしたい考えだ。非製造業では、出張JR券の取扱拡大など観光客の増加に期待している。一方で、商圈の変化に伴い、東京方面への顧客流出を懸念する声も聞かれた。

強化する事業や取り組みについては、製造業では、事業拡大に向けて海外での事業基盤の強化と製造原価引き下げのための取り組みが挙げられた。このほかにも、新製品の事業強化や加工技術の開発による差別化を図る等の回答があった。非製造業では、若手社員の育成や店舗のリニューアル、販売サービスの拡充が挙げられた。北陸新幹線の開業に伴い、富山駅前の交流人口の増大が予想され、駅前の活性化を通じて地域に貢献していきたい企業もあった。

業種別の動向として、製造業の「一般機械」では、自動車生産とその関係部品は好調を維持し、産業機械・建設機械分野の需要回復を背景に受注は堅調に推移した。「電子部品」では、自動車分野の他にも、情報端末関係が好調となった。「紙加工」では、ジェネリック医薬品向けと輸出製造機械向けが好調であった。

非製造業の「小売」では、生鮮食品や化粧品などが好調であったが、衣料品や家庭用品、ギフト贈答品が振るわなかった。「家電専門店」では携帯電話やクリーナーが好調となったが、冷蔵庫や洗濯機等の白物家電、パソコンの不調が続いている。

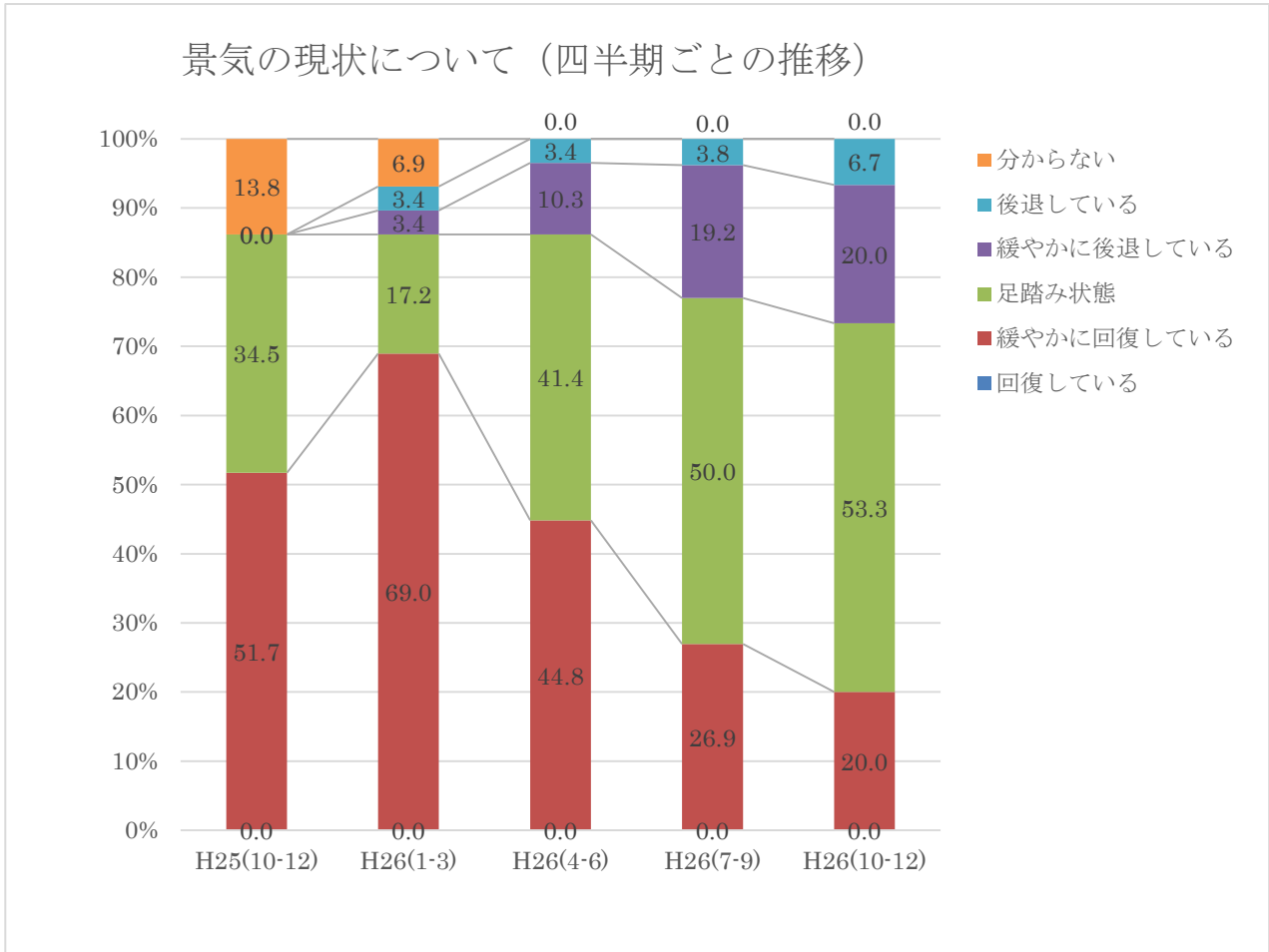
#### <実施要領>

1. 調査期間 平成27年1月13日～平成27年1月27日
2. 調査対象 当所景気モニター企業 30社
3. 調査方法 調査票を郵送し、FAXまたは郵送で回収（一部、電話による聞取調査を実施）
4. 有効回答数 30社（回収率100%）

## (1) 今期の状況

今期の状況(%)		25年 10-12月期	26年 1-3月期	26年 4-6月期	26年 7-9月期	26年 10-12月期
①売上高	増加	56.7	72.4	36.7	37.0	30.0
	不変	13.3	3.4	13.3	22.2	26.7
	減少	30.0	24.1	50.0	40.7	43.3
	D I	26.7	48.3	△ 13.3	△ 3.7	△ 13.3
②売上単価	上昇	13.8	35.7	27.6	30.8	20.0
	不変	55.2	35.7	31.0	53.8	50.0
	低下	31.0	28.6	41.4	15.4	30.0
	D I	△ 17.2	7.1	△ 13.8	15.4	△ 10.0
③仕入単価	低下	0.0	0.0	3.7	7.7	10.0
	不変	58.6	51.9	33.3	53.8	50.0
	上昇	41.4	48.1	63.0	38.5	40.0
	D I	△ 41.4	△ 48.1	△ 59.3	△ 30.8	△ 30.0
④採算	好転	27.6	37.9	17.2	25.9	26.7
	不変	44.8	31.0	41.4	33.3	23.3
	悪化	27.6	31.0	41.4	40.7	50.0
	D I	0.0	6.9	△ 24.1	△ 14.8	△ 23.3
⑤資金繰り	好転	7.1	7.1	0.0	0.0	3.3
	不変	89.3	85.7	96.4	88.5	83.3
	悪化	3.6	7.1	3.6	11.5	13.3
	D I	3.6	0.0	△ 3.6	△ 11.5	△ 10.0
⑥従業員	増加	17.2	14.3	14.3	11.5	16.7
	不変	58.6	46.4	53.6	53.8	43.3
	減少	24.1	39.3	32.1	34.6	40.0
	D I	△ 6.9	△ 25.0	△ 17.9	△ 23.1	△ 23.3

(2) 前期の比較と来期の見通し



今期の業況(%)		25年 10-12月期	26年 10-12月期	26年 4-6月期	26年 7-9月期	26年 10-12月期
前期比	好転	46.7	41.4	23.3	33.3	26.7
	不変	30.0	44.8	26.7	29.6	43.3
	悪化	23.3	13.8	50.0	37.0	30.0
	D I	23.3	27.6	△ 26.7	△ 3.7	△ 3.3
来期の見通し	好転	46.7	32.1	34.5	15.4	16.7
	不変	40.0	25.0	34.5	57.7	40.0
	悪化	13.3	42.9	31.0	26.9	43.3
	D I	33.3	△ 10.7	3.4	△ 11.5	△ 26.7

# 1. 企業からの主なコメントおよび業界の動向

---

## (1) 製造業

### ◆一般機械

世界的に好調な自動車生産と市販の産業機械分野の需要拡大を背景に、前期に引き続き受注環境は堅調に推移した。トランスミッション等の構成部品や自動車用ベアリング部品、DIY向けの六角軸ドリル、切削工具（エンドミル）の圧接・旋削加工も好調となったが、切削工具（ドリル）の圧接・施削加工では不調となった。

### ◆電子部品

自動車関連、スマートフォンやタブレットなどの携帯情報端末関連が好調を維持した。一方で、ガス機器向けの温度センサーは不調に転じ、液晶テレビやAV機器、パソコン関連も振るわなかった。

### ◆輸送機械

昨年の消費税率引き上げ後、拡大販売の減少した後の持ち直しにおいて、主要取引先の外的要因でのトラブルが続いたことにより、品質最優先で総点検している。それにより、新規モデル開発や発売時期が後送りになるなど、来期にも影響が出る状況となっている。

### ◆プラスチック

ペット用品やベビー用品は好調であったが、携帯電話部品関連が不調となった。

### ◆医薬品

ジェネリック医薬品は、需要拡大が進み好調を維持しているが、配置用医薬品は不調が続いている。

### ◆紙・紙加工

ジェネリック医薬品関連と輸出向け自動車関連の製品が好調に推移する一方で、飲料関連やアルミ・建材関連の製品が不調となった。包装資材の業界においては、原材料が高騰し収益悪化が続いており、厳しい状況となっている。

## (2) 非製造業

### ◆食料品卸売

南瓜、生椎茸、ミニトマト、バナナ、パイナップル、キウイフルーツが好調だった。大根、人参、キャベツ、白菜、レタス、玉葱、かぶ、小松菜、みかんが不調だった。

### ◆リース

産業機械・土木建設機械の取扱いは増加したが、情報関連機器の取扱いが不調となった。

### ◆大型小売店・専門店

百貨店では化粧品や美術・宝飾品、時計、生鮮食品が好調だったが、婦人衣料品、紳士衣料品、家庭用品は不調だった。

ショッピングセンターでは、精肉等の食品部門の調子が良かった。原材料は値上がりしていたが、消費税率引き上げのタイミングで価格転嫁がスムーズに進み、売上単価の上昇につながったことが要因と考えられる。一方で、衣料や寝具など非食品部門の調子は上がらなかった。

家電量販店では、携帯電話やクリーナーが好調だったが、冷蔵庫や洗濯機などの白物家電、パソコンは不調となった。

服飾専門店では、カシミアやウールなどのニット製品、パンツやジーンズの生地にダウンなどを使用した暖かさを重視した商品が好調となった。

#### ◆旅行

国内では教育団体旅行、個人旅行のほか、JR券の販売が堅調だったが、国内航空券の販売は振るわなかった。海外については、団体旅行が回復したものの、個人旅行と航空券は不調となった。

#### ◆飲食

おせちの販売や少人数グループでの利用が好調だった。しかし、衆議院選挙の影響などで大人数の会合が例年よりも少なかった。

#### ◆輸送

鉄道輸送は好調だったが、倉庫業は不調だった。

#### ◆情報関連

流通業・製造業関連システムの開発が好調となったが、金融業関連システムの開発は不調であった。

#### ◆建設工事

<富山市内の新設住宅着工戸数>

	戸数 (戸)		前年 同月比(%)
	平成 26 年	平成 25 年	
10月	301	261	115.3
11月	254	217	117.1
12月	290	271	107.0

(富山県調べ)

#### ◆新車販売

<県内の新規自動車登録台数(軽自動車は除く)>

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成 26年	平成 25年	
10月	2,405	2,762	87.1
11月	2,449	3,079	79.5
12月	2,064	2,326	88.7

(富山県自動車販売店協会調べ)

<軽自動車登録届出数>

	台数(台)		前年 同月比(%)
	平成 26年	平成 25年	
10月	1,779	1,661	107.1
11月	1,810	1,999	90.5
12月	2,014	1,905	105.7

(軽自動車検査協会富山事務所調べ)

## 2. 北陸新幹線開業の影響等について

---

3月14日に北陸新幹線が開業することをうけて、観光客やビジネス客等の増加、通勤圏や出張形態、商圈の変化等の影響について聞いた。

- ・富山県が日本海側の一大拠点になる可能性が出てきた。また、開業2年目からは、自然豊かな富山の魅力にひかれ、観光客が増えると考ええる。
- ・富山・東京間での移動が容易になり、首都圏からの顧客のアクセスも向上する。出張形態も変化し、日帰りで往復できるため、宿泊代等の経費削減が見込める。一方で、重要案件の打ち合わせは顔を合わせての商談ができ、スピードを上げた取り組みを期待している。
- ・関東方面から技術系の人材が確保しやすくなる。
- ・食品業界の売上増や土産品製造メーカーに期待するとともに、土産品関係のパッケージ需要の増加とそれに伴う紙需要の回復を期待している。
- ・富山県産野菜、果物のおいしさや特徴をPRし、生産振興につなげたい。
- ・首都圏や長野とのビジネス拡大とともに、服飾品、高額品の消費が流出することが懸念される。生活スタイルやファッショントレンド等が東京化することも考えられるため、都心の百貨店をベンチマークにしたMD（マーチャンダイジング）・販売サービス等が問われる。
- ・新幹線高架下に開業する商業施設「きときと市場 とやマルシェ」、3月1日にリニューアルオープンしたマリエ富山本館に期待している。
- ・海外や国内航空機利用団体の東京方面への取扱額が減少しているなか、富山で開催されるスポーツイベントの取扱の増加が見込まれているが、新幹線利用団体の需要は、まだ読めていない。
- ・東京方面へは時間短縮で便利になるが、関西方面や名古屋方面へは不便になる。
- ・民間の設備投資が増加し、取扱案件が増えれば好循環になると考えている。

## 3. 平成27年の強化する事業や取り組みについて

---

平成27年の干支は「乙未」、未来に向けて革新すべき時と言われている。今年から強化する事業や取り組みなどについて聞いた。

- ・事業規模の拡大に向けて、海外での事業基盤の強化と、商材ラインナップの拡充を進める。また、製造原価の引き下げに向けて、調達のコストダウンの推進と生産性の改善を行う。
- ・海外展開の加速に合わせ、グローバルな枠組みでシェア拡大を図る取り組みを追求していく。
- ・新しい加工技術の開発で差別化商品を産み出したい。
- ・配置用医薬品市場の活性化を行いたい。
- ・収益確保や売上確保のため、ロジスティック等のセールスプロモーションを推進している。
- ・生活者目線に基づくものづくり、販売提案をしていきたい。
- ・北陸新幹線開業に伴い、富山駅前の交流人口が増大するので、駅前活性化を通じて地域に貢献していきたい。
- ・携帯電話のSIMフリー化に伴うSIM回線の販売、オムニチャネル化等を進めたい。
- ・インバウンド（訪日）旅行や富山に宿泊、来県する団体、個人客を向け業務を拡大する。
- ・長年、BtoBビジネスを展開してきたが、消費者に直接訴求するBtoBtoCの領域を開拓したい。また、ASEAN（東南アジア諸国連合）諸国において、安全にサービスを展開しており、北米に拠点を設けることも検討している。

以上